

アンケート結果の課題別概要

【課題1 個体数の低減が達成されていない】に関して

全ての計画において、生息数・密度の目標の達成には至っておらず、未だ上昇傾向に有る計画が半数以上である。減少・低下傾向であったのは一部の計画に限られた。

これまでの特定計画に基づく狩猟規制の緩和、奨励金等による捕獲の推進の施策は一定の効果があったと認識されているが、更なる捕獲の推進が必要であることが各自治体で認識されている状況が明らかになった。

現在も捕獲数を確保している主力の担い手は猟友会であるが、新たな担い手、施策が求められている。

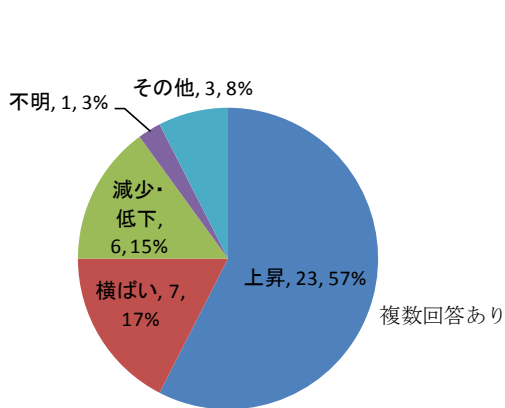


図 1-1 最近3～5年の生息数・密度の動向

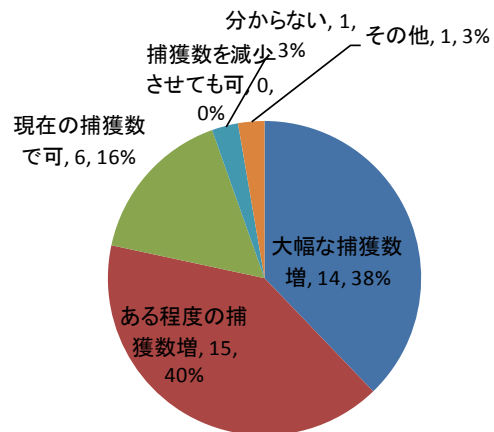


図 1-2 今後の捕獲規模をどうすべきか

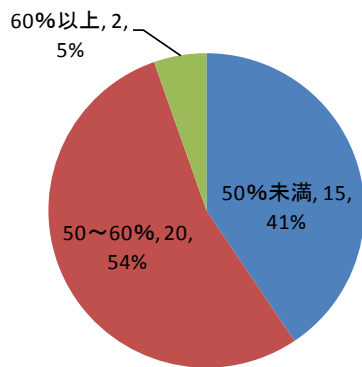


図 1-3 メスの捕獲比率

【課題2 特定計画における目標設定と目標の具体化に問題のあるケースが見られる】(Plan) に関して

計画目標である被害や生態系影響の軽減目標について明確となっていない場合でも、多くの計画で毎年の捕獲目標数は明確にされており、現地調査に基づく根拠を持つ目標数であることが多かった。上記「課題1」で生息数・密度が上昇傾向にあり、捕獲数の増加が必要とされていることから、各自治体が想定している以上の過小評価(不確実性)、目標捕獲数に対する捕獲実績の不足が生じている事が推察された。

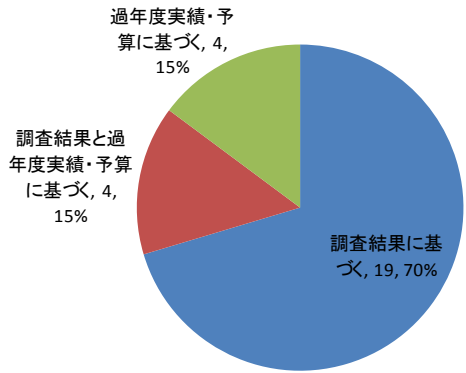


図 2-1 目標捕獲数の設定根拠

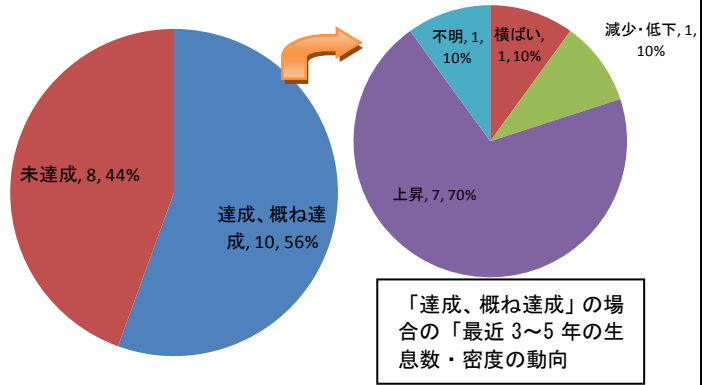


図 2-2 目標捕獲数の達成状況

【課題3 科学性と計画性を持った充実した管理計画の策定と施策実施という点で改善が必要な課題や地域が多い】(Checkに関連する)Do) に関して

検討評価のための作業グループの設置、地域の研究機関、大学との連携等によりモニタリング結果の科学的評価が多く計画で行われていると認識されていた。検討結果の計画への反映は過半が捕獲の拡充であるにもかかわらず、捕獲の実態把握・分析は不十分であり、PDCAが「十分に機能している」回答が少なかった要因の一つと考えられた。

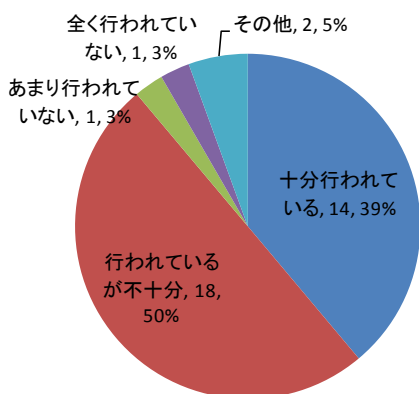


図 3-1 モニタリング結果の科学的評価の実施状況

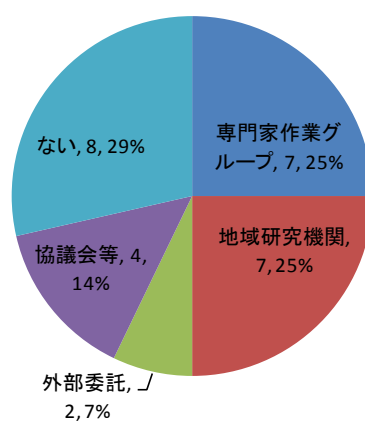


図 3-2 評価検討のための作業グループ設置状況

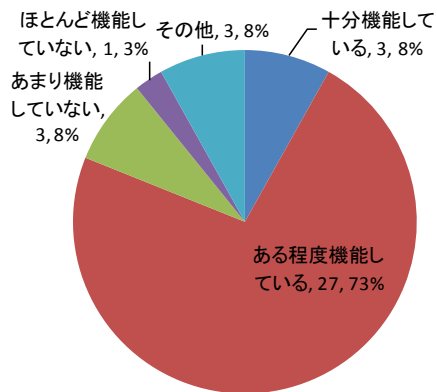


図 3-3 PDCA 機能状況

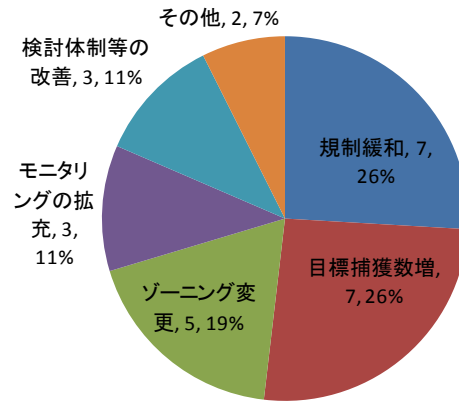


図 3-4 計画の改善内容

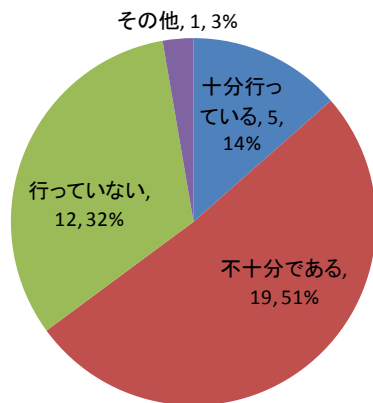


図 3-5 捕獲数の増加と捕獲効率向上のための捕獲の実態把握、分析状況

【課題4 モニタリングは特定計画の策定と実行に必要な作業として定着しているが、予算削減を背景として縮小が進み、科学性の確保に支障が生じている。また、データの必要性の優先度を考慮した適切なモニタリングが求められている】に関して

個体数・密度低減に直接関係する生息数（密度）および生息密度指標にモニタリングの主眼が置かれており、計画目標の主な項目である農林業被害、生態系影響、個体群の質を計る捕獲個体に関するモニタリングの位置づけは低い。

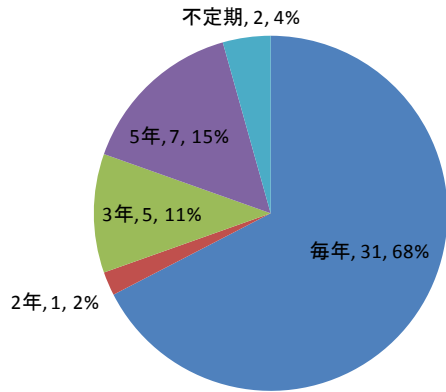


図 4-1 生息数・密度に関するモニタリング頻度
(ただし、「毎年」には全域調査でないものが含まれる)

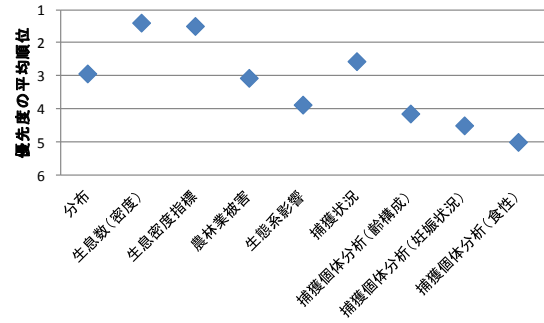


図 4-2 モニタリング項目の優先順位